

子どもがグングン伸びる 最新のスポーツ科学



ミスをミスに見せないための“思考”と“技術”

Wカップで大活躍したサッカーですが、醍醐味はどんなところでしょう？

「華麗なドリブルやフェイント、リズミカルなパスワークからゴールを決める」サッカーというスポーツは、そんなカッコいいイメージをお持ちの方が多いです。しかし、実はサッカーというスポーツは、多くのミスをするスポーツです。私の尊敬す

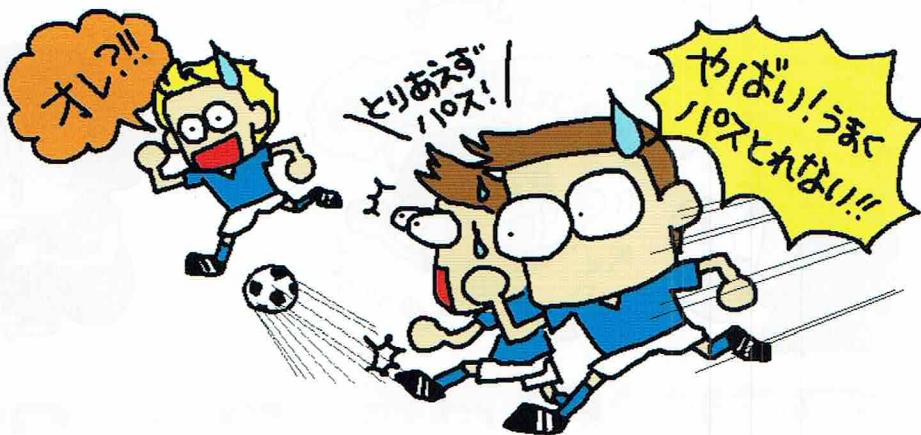


サッカーとは。
ミスをミスに
見せないように
するスポーツ

る指導者の言葉を借りれば、「サッカーとは、ミスをミスに見せないようにするスポーツ」なのです。さて、それはどういうことなのでしょうか。

例えば、シュートを打ちたいと思って味方からパスを受けたとします。しかし、ボールを自分のイメージ通りに止めることに失敗して、シュートを打つのが困難になってしましました。仕方なくフェイントをかけて相手をかわして、フリーの選手にパスをしたら、得点につながった。このようなプレイは日常的にあります。もし、ボールを止めることに失敗したとき、頭の中の“シュート”という思考を変えていなければ、得点につながることはありませんでした。偶然が生んだ得点かもしれません、このように機転をきかせた一瞬の判断がサッカーではとても重要です。

そもそも、自分のイメージ通りにボールを止めることができなかつたので、これはミスと言えますが、ミスをミスに見せないよう工夫した結果、得点が生まれました。これは世界で活躍する一流選手でも同じことが言えます。かつて、ロナウジーニョ選手のプレーからも、ミスから得点につながるシーンを見つけることができました。



子どもの中に論理的な思考をする姿勢が身につける



自問自答ができない人は、「将来はリーガーになりたいなあ、どうすればなれるんだろう?」「…」

それに対する返答がなく、心の中で会話も続かず、結論が出ないまま終わってしまいます。もしくは、ちぐはぐな自問自答を続け、的外れな結論を出してしまった可能性も考えられま

自問自答で的確な結論を導き出せるということは、筋道を立てた思考ができるということでもあります。論理的思考力が、的確なコミュニケーションを生み、それが自問自答の第一歩になるのです。まずは、人と積極的に会話すること、そして相手の質問に対して的確な返答をすることからトライしてみてください。

子どもに対して行うときは、あなたが質問を投げかけてそれに子どもが答えるという問答の形式で行うのが良いでしょう。子どもの中に論理的な思考をする姿勢が身に付くとともに、子どもの理解ができるので一石二鳥です。



運動療育こどもプラスグループ

お問い合わせはこちらから→TEL:0120-970-421 「参加を希望する教室の住所または地域をオペレーターに申し添えてください。」

